

令和5年度 夏季企画展

斎宮・常設展示室Ⅲ その③

斎宮寮

令和5年

7月8日(土) ▶ 9月3日(日)

史跡公園 さいくう平安の杜

展示解説シート集



(日本遺産) 祈る皇女斎王のみやこ 斎宮
斎宮歴史博物館
Saiku Historical Museum

ごあいさつ

斎宮歴博物館では、夏季企画展において、常設展示室の展示内容を掘り下げて詳しく紹介するシリーズ展示「斎宮・常設展示室Ⅲ」を開催しています。

この度の展覧会は、令和2年度の「斎王を選ぶ」、令和4年度の「斎王群行」に続く、シリーズ展示の第3弾で、斎宮の地で暮らす斎王を支えた役所「斎宮寮」がテーマです。

本展覧会では、斎宮寮の設置と整備の歴史に始まり、斎宮寮の組織構成、運営の様子、寮ではたらく人々の生活、近世の斎宮研究に至るまで、様々な面から斎宮寮についてご紹介します。

史跡内には、発掘調査により明らかとなった、斎宮寮とされる建物を復元整備した史跡公園「さいくう平安の杜」もございます。展覧会とともにぜひ足をお運びいただき、斎宮寮に思いを巡らせていただく機会となりましたら幸いです。

最後になりましたが、本展覧会実施にあたり、貴重な資料をご出陳くださいました神宮文庫様に厚く御礼申し上げます。

令和5年7月8日

斎宮歴史博物館

館長 大西 宏明

目次

ごあいさつ	1
目次	1
第1章 斎宮寮の設置と整備	2
第2章 斎宮寮の組織	4
第3章 斎宮寮の経済	6
第4章 近世の斎宮研究	8
トピック展 斎宮ではたらく人々の横顔	9
謝辞	10
主な参考文献	10

凡例

- ・本展示解説シート集は、は令和5年7月8日（土曜日）から9月3日（日曜日）まで開催する、令和5年度夏季企画展「斎宮常設展示室Ⅲ その③ 斎宮寮」の展示解説シート集である。
- ・本展示解説シート集の個別解説における資料番号と、展示における資料番号は一致するが、必ずしも展示順序を示すものではない。また、本展示解説シート集内においても前後しているところがある。
- ・本展示解説シート集に掲載する資料（展示資料写真及び解説）は、展示資料のうち一部を抜粋したものである。
- ・重要文化財は、資料名称の前に◎を付した。
- ・本展示解説シート集の編集作業・本文執筆は、斎宮歴史博物館学芸普及課及び調査研究課の監修のもと、学芸普及課の松田茜が行った。

第1章 斎宮寮の設置と整備

斎宮寮は、斎王が伊勢に在任している間設置された役所で、『続日本紀』等の記述によれば、8世紀初頭には設置されていたとみられます。

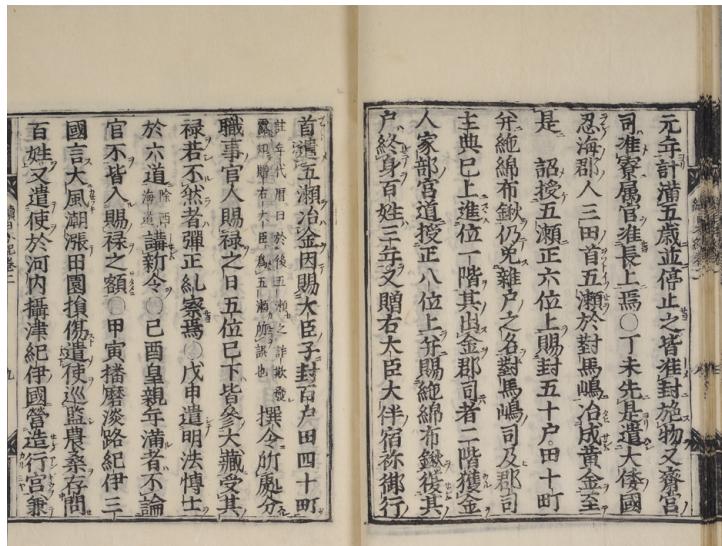
斎宮寮全体の職員数は500人を超える、独自の財政基盤により運営された国の出先機関でした。

第1章では、斎宮寮の設置と整備の歴史をたどるとともに、この地に特別な役所が置かれたことを物語る、出土資料の数々をご紹介します。

斎王のための官司

斎王のための官司がいつ頃から置かれたか定かではありませんが、『続日本紀』大宝元（701）年8月4日条から少なくとも大宝元年には存在していたことが分かります。

本条では、「斎宮司」（大宝令成立以前の官司名である斎宮官のことと思われます）を、大宝令に規定される寮（役所のランクのひとつ）と同等の扱いとすること、職員は常勤職員扱いとすることが定められました。

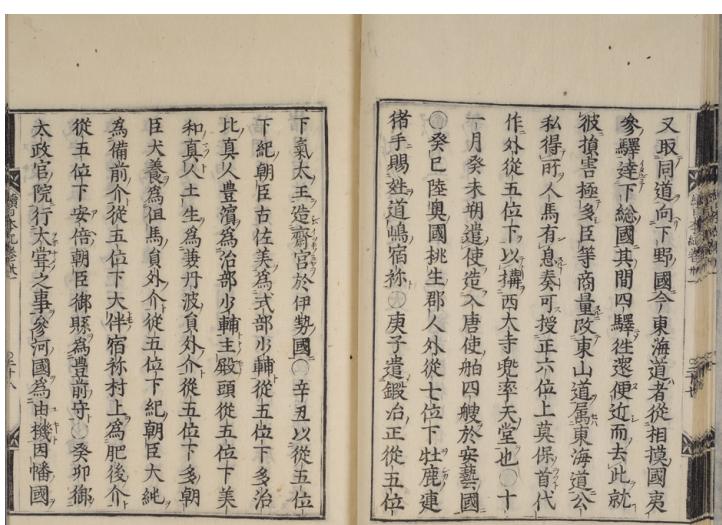


1 続日本紀 大宝元年8月4日条

斎宮の造営

『続日本紀』宝亀2（771）年11月18日条に、氣太王を派遣し、斎宮の造営に当たらせる記事があります。翌宝亀3年の11月に、光仁天皇の皇女酒入内親王が斎王に選ばれており、氣太王の派遣は、光仁朝の斎王選出にともない、斎宮を整備するためのものと考えられます。

また、延暦4（785）年には、紀作良を造斎宮長官（斎宮の造営にあたる官司の長官）に任じています。『続日本紀』延暦4年8月24日条に、斎王朝原内親王の潔斎が終了したことが、同年9月7日条に、斎王一行が斎宮に向け出発したこと記されており、作良は斎王の下向に伴う斎宮の造営のために任官されたと考えられます。



2 続日本紀 宝亀2年11月18日条

羊形硯・鳥形硯

平成3（1991）年に博物館南側で行われた調査にて、羊の頭部をかたどった須恵器が出土し、平城京跡出土の類例から、硯の一部と判明しました。羊の造形は、正倉院宝物のような絵画を参考に作られたと考えられ、平城京から斎王とともにもたらされた可能性が高い、希少な文物と言えます。

また、鳥形硯は史跡中央の方格街区で出土しました。くちばしや胴体部分は欠損しており、頭部のみが出土しました。同じ調査では、羽毛の表現と思われる線刻のある破片も見つかっており、鳥形硯の蓋の一部と考えられます。



(左) 5 ◎斎宮跡出土 鳥形硯 ※展示はレプリカ

(右) 4 ◎斎宮跡出土 羊形硯 ※展示はレプリカ

奈良三彩陶器片

奈良三彩は、奈良時代に唐三彩（中国唐代に焼かれた陶器の一種）をまねて作られた陶器で、釉薬により、緑・白・褐の3色が生み出されます。

斎宮跡では、史跡西部から、小型短頸壺とその蓋と見られる破片が、史跡中央部からは陶枕（陶磁器製の枕）の破片や二彩陶器片等が出土しています。



6 ◎斎宮跡出土 奈良三彩陶器片

斎宮寮の印

当時の基本法である律令には、公文書への押印が定められていました。中央の役所には、それぞれ公印が与えられましたが、斎宮寮では、他の組織に先駆けて印を用い始めました。これは、斎宮寮が遠方にあり、寮物の出納に押印が必要とされたからと考えられます。

右は、現存する斎宮寮解の印影をもとに、斎宮寮で用いられた印章を復元したものです。寸法は、印影及び律令の規定から、一辺が二寸二分（約6.6センチメートル）の方形と、また材質は、『延喜式』や『続日本紀』の記述から銅と分かります。



8 銅印「斎宮之印」（模造）

第2章 斎宮寮の組織

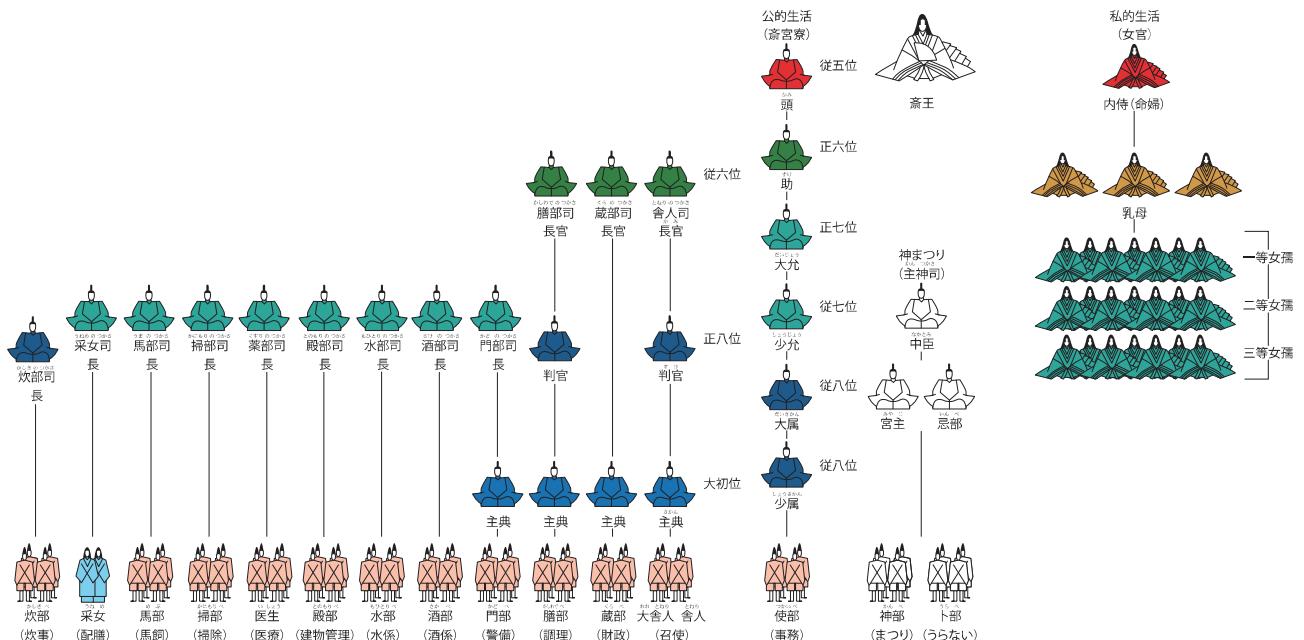
斎宮寮の下には、具体的な事務を担当する司という小さな官司が置かれました。

各司の業務は、行政事務、経理、斎王や職員の食事、斎宮内の環境維持、警備など多岐にわたります。神祇官の管轄下に置かれた主神司を含めると、斎宮では計13の司がそれぞれの業務を通して斎王の生活を支えていました。

また、斎宮寮の官人は男性でしたが、斎王のそばに仕え、斎王の身の回りの世話をする女官もいました。

第2章では、斎王を支えた司について、関連する出土資料等を交えながらご紹介します。

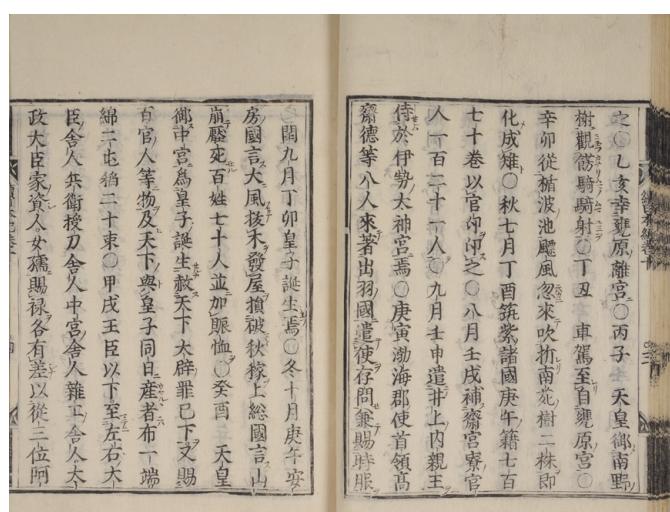
斎宮の組織図



組織の拡大

〔12〕 続日本紀は、聖武朝の斎王井上内親王の群行に先立ち、斎宮寮の官人121人を任命する記事です。本記事の任命によって、斎宮寮の組織は飛躍的に拡大したと考えられています。

また、『類聚三代格』所収の神亀5(728)年7月21日勅では、門部司と馬部司を除く11の斎宮寮の司の官職の定員と官職の相当する位階を定めています。なお、門部と馬部は武官で、兵部省の配下にあつたことから、この勅に含まれなかつたと考えられています。



12 続日本紀 神亀4年8月23日条

斎宮の司

司	職務	備考
かんつかさ 主神司	斎宮内の祭祀を取り仕切る	中央の神祇官の所管。独自の印をもつなど、斎宮寮からは独立した組織でした。
とねりのつかさ 舎人司	宿直や雑務などの庶務	こうこう　しげこ 光孝朝の斎王繁子内親王の群行時に発生した鈴鹿の頓宮の とねりのおさいそべのとよたき 火災の記事に、舎人長磯部豊瀧の名前が見えます。
くらのつかさ 蔵部司	倉の管理と出納、経理など	発掘調査により、方格街区の北側で倉庫群と見られる区画が見つかっています。また、「蔵」「蔵長」「椋」など蔵部司と関係すると見られる墨書き土器が出土しています。
かしわでのつかさ 膳部司	斎王の食事や祭祀の膳を奉仕	「膳」の墨書き土器が出土しています。
かしきのつかさ 炊部司	斎宮寮の職員の食事の炊事	「炊」「大炊」などの墨書き土器が出土しています。
さけのつかさ 酒部司	斎宮で用いる酒・醴・酢を醸造、管理	「酒」の墨書き土器が出土しています。
もひとりのつかさ 水部司	斎宮の井戸や冰室の管理	「水司」「水司鴨」などの墨書き土器が出土しています。
とのもりのつかさ 殿部司	殿内の諸道具の管理や清掃、明かりの管理など	「殿」の墨書き・刻書き土器が出土しています。
うねめのつかさ 采女司 (女部司)	斎宮ではたらく女官の管理や人事	しんでん　かべしろ 寝殿の壁代・帳・服・靴を縫い備えることも役割でした。縫製関係の業務には下級女官が配された可能性が考えられます。
くすりのつかさ 薬部司	斎王や官人のための薬や薬園の管理、疾病治療	薬を納めるのに用いられる薬壺に似た形の土師器や「薬」の墨書き土器などが出土しています。
かにもりのつかさ 掃部司	清掃や儀式の設営	『延喜式』には掃部司の掃除道具に関する記載があります。
かどりのつかさ 門部司	斎宮の門を守衛	門の守衛のほか、方格街区に植えられた松や柳の管理、大垣や大庭の掃除も行ったようです。
うまのつかさ 馬部司	馬の飼育	斎宮では、斎王や女官らに与えられた馬や祭祀に用いられる馬など、複数の馬が飼育されていました。



(上段左) 15 ◎斎宮跡出土 墨書き土器「蔵長」

(上段中) 15 ◎斎宮跡出土 墨書き土器「酒」

(上段右) 27 ◎斎宮跡出土 雁股鎌

雁股鎌をつけた矢は、物の怪を払うための矢として、祭祀や儀礼でも多く用いられました。都では、物の怪退治は宮中の門を守る衛門府の役割であったことから、斎宮の門部司も同様の役割を担っていた可能性があります。

(下段) 23・24 斎宮跡出土 薬壺型土師器と石英塊

第3章 斎宮寮の経済

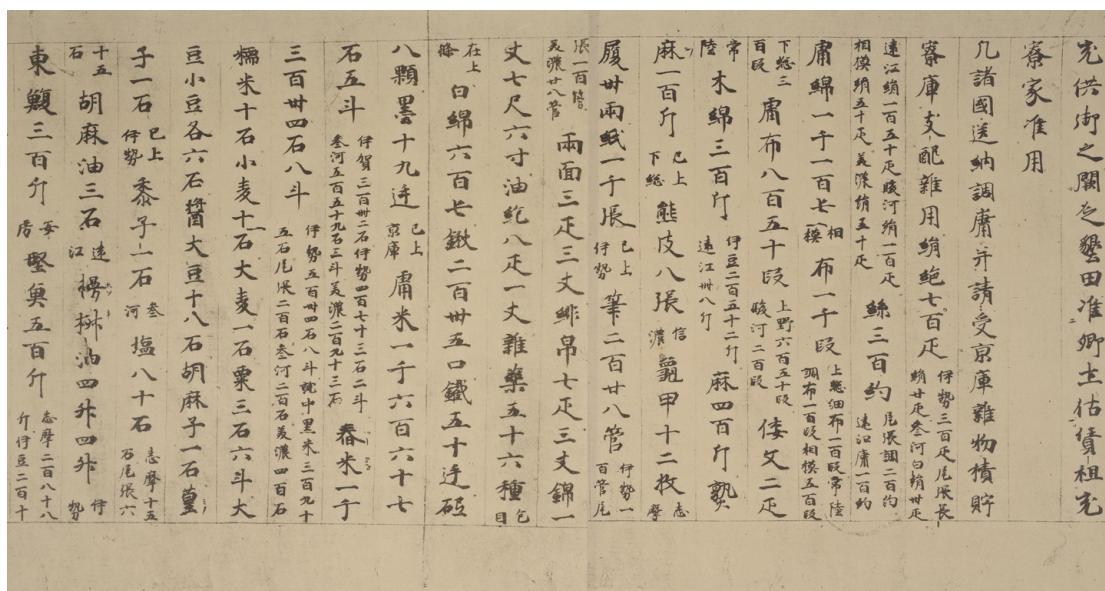
斎王の生活を維持し、組織を運営していくためには、衣食住に関わる生活必需品をはじめ、様々な物品が必要です。斎宮や斎宮寮はどのように運営されていたのでしょうか。

斎宮寮の諸経費は、中央に納入される税の一部が充てられました。それらの税は、伊勢国や近隣の志摩国、伊賀国のみならず、現在の東海・中部・関東地方から斎宮へ直接納入、運用されました。

第3章では諸国が納める物品の種類や数を定めた『延喜式』の規定を参考にしながら、斎宮寮の財源・経済についてご紹介します。

斎宮及び斎宮寮の財政は天平2（730）年に大きな転換を迎えます。

それまで斎宮の諸経費は、神宮の財源からまかなわれていましたが、諸国が中央に送る税の一部を斎宮寮に納入り、それらの税を斎宮の運営に充てることに改められたのです。この措置は、同時期に行われた斎宮の組織の拡大に連動するものと考えられます。



41 一条家本 延喜式（レプリカ）斎宮式 調庸雜物条

『延喜斎宮式』調庸雜物条は、諸国や都から斎宮寮に納入される物品に関する条です。現在の東海・中部・関東地方から、各地の特産品などが直接斎宮に送られました。

その内容は、絹や木綿、麻などの素材や布製品、米などの穀物、油、海藻など様々です。



43 堅魚（模造）



44 若布（模造）

例えば、志摩・伊豆・駿河からカツオやカツオの加工品が、志摩から海藻が納入されていました。また、諸国からの調達が難しい薬や金属類、高級織物などの物品は、中央の役所から調達しました。



49 ◎斎宮跡出土 志摩式製塩土器

志摩の塩

志摩国は、庸^{よう}（税の一種で、都での10日間の労働を行う）の代わりとして、都に塩を納めるなど、塩の産地でもありました。

志摩の塩は、斎宮にも納入されていました。斎宮跡からは、塩を作る際に使用したと見られるたらい型の土器、志摩式製塩土器も出土しています。この土器は、水分を蒸発させた濃い塩水を火にかけ、さらに水分を飛ばして塩にする工程で用いられたと考えられており、完成した塩は、この器のまま、各地に運ばれたようです。

多くの人が集い働く斎宮は、塩の一大消費地でした。



48 ◎斎宮跡出土 美濃窯産須恵器

※画像のうち一部を展示

各地から運ばれた器

〈須恵器〉

『延喜斎宮式』調庸雜物条では、美濃国が「陶の器」を納入することになっています。

斎宮跡では、斎宮が国税で運営されたようになった8世紀中頃から、美濃須衛窯の須恵器が大量に見られるようになります。

一方で、日常の器である土師器は、斎宮周辺で生産されたと見られています。

〈緑釉陶器〉

斎宮跡は緑釉陶器が数多く出土する点に特徴があります。

9世紀前半から京都産や猿投窯（現在の愛知県）の緑釉陶器がもたらされ、10世紀になると、美濃東部や近江で製作されたものが入ってくるようになります。



47 ◎斎宮跡出土 緑釉陶器碗（猿投窯）



47 ◎斎宮跡出土 緑釉陶器皿（猿投窯）

第4章 近世の斎宮研究

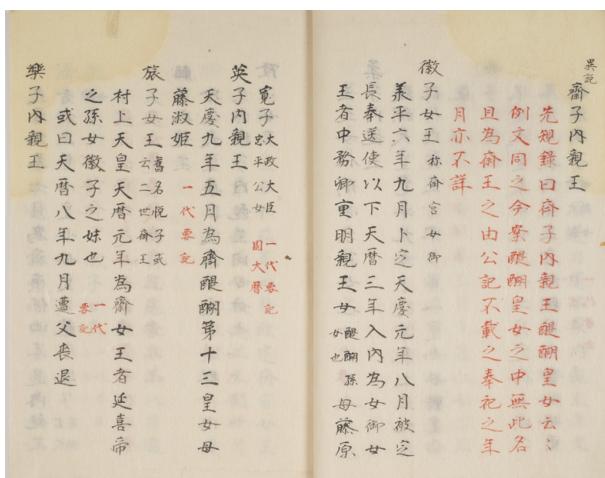
そのだ もりよし じんぐうてんりやく みかんなぎきよなお
斎宮・斎宮寮をめぐる研究は、江戸時代後期の園田守良による『神宮典略』や御巫清直の『斎宮寮考証』から、現代に至るまで、文献、考古の両面から様々な研究が行われています。

第4章では、江戸時代後期の研究を中心に斎宮の研究史をたどります。

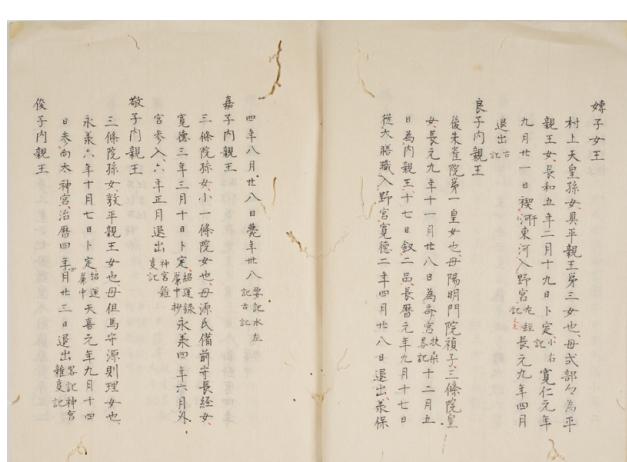
そのだ もりよし
伊勢出身の江戸時代後期の神官・神道学者、園田守良が著した伊勢神宮の総合的な制度史研究の書『神宮典略』では、斎宮についても、制度・構造・沿革に至るまで、実在の史料をもとに幅広く検討されており、斎宮研究の原点に位置づけられます。

伊勢神宮外宮の神官で国学者の御巫清直は、幕末の津藩による斎宮復興運動の中で、藩主藤堂高猷の依頼により、斎宮に関する様々な調査、研究を行いました。斎宮内に存在したとされる建物や施設について考証し、斎宮寮の復元的研究を試みた『斎宮寮考証』や、院政期から鎌倉時代にかけ斎王制度が衰退・廃絶していく経過や、斎宮の荒廃の様子を再現するとともに、当地に残る斎宮の旧跡について考証を加えた『斎宮寮廃蹟考』などの著作があります。

歴代斎王について、各人の経歴を史料に即してまとめた著作も見られます。



53 斎宮次第伝



55 伊勢斎宮記

「伊勢次第伝」を著した井面守和は、江戸時代後期の伊勢神宮の神官とみられる人物です。本書は、園田の研究と同時期の成立と考えられ、江戸時代後期に伊勢神宮の神官らの中で斎王制度の研究が行われていたことが分かります。

「伊勢斎宮記」は、江戸時代後期の有職故実家、伊勢貞春の著作です。貞春は武家礼法の流派、伊勢流の継承者であり、近世の斎宮研究が地元や神宮研究の一端に留まらず、広がりを見せていましたことがうかがえます。

このほか、幕末の京都平野神社の神官、斎部富嗣は斎宮に強い関心を寄せていたと見られ、斎宮の年中行事の復元を試みた「斎宮年中行事新式草稿」など斎宮に関する著作を著しているほか、斎宮寮内にあったとされる神社の再興を求める願書の写しなども今に伝わっています。

トピック展 斎宮ではたらく人々の横顔

斎宮跡出土資料の中には、斎宮ではたらいていた人々の息づかいを感じさせるような資料も数多く存在します。

字の練習をしたと見られるひらがな墨書き土器や、遊びに使ったと思われる品々、まじないに関わるとされる資料などから、斎宮ではたらく人々の日々の営みをのぞいてみましょう。



35 斎宮跡出土 ひらがな墨書き土器うち
いろは歌墨書き土器

ひらがな墨書き土器

ひらがなが書かれた墨書き土器は斎宮跡の特徴のひとつで、史跡中央部を中心に100点以上が出土しています。

文字の多くは、練習や筆ならしとして書かれたものとみられます。斎王の住まいとされる内院の鍛冶山西区画やその周辺からの出土例が多いため、斎王や近侍する女官らに関連するものと考えられます。

左画像の土器には表面には「ぬるをわか」、裏面には「つねなら」といはう歌が書かれています。



37 ◎斎宮跡出土 線刻土器

古代のボードゲーム「かりうち」の盤面？

土師器の蓋の内側に放射状に線と列点が刻まれており、古代のボードゲーム「かりうち」の盤面ではないかと指摘されています。

かりうちは、『万葉集』にも登場する遊びで、奈良・平安時代に都で大流行しました。

同様の列点記号をもつ土器や木皿等が平城京をはじめ各地で出土しており、奈良文化財研究所が「かりうち」の遊び方を復元しています。



サイコロ型土製品

一辺が2センチメートルほどの、角がやや丸くなった立方体の土製品です。

サイコロは、盤双六などの遊びで用いられました。『枕草子』には所在なさがなぐさめられるものとして、碁や双六が挙げられており、斎宮の人々もサイコロを使って遊びに興じていたかもしれません。

38 ◎斎宮跡出土 サイコロ型土製品

謝辞

本展覧会の実施にあたり、貴重な資料をご出陳くださいました神宮文庫様に厚く御礼申し上げます。

主な参考文献（※本展示解説シート集に直接関わるもの）

【著作・論文】

榎村寛之『伊勢斎宮の祭祀と制度』（塙書房、2010年）

熊田亮介「斎宮寮の成立をめぐって」（『文化』41－1・2、1977年）

駒田利治『伊勢神宮に仕える皇女・斎宮跡』（シリーズ「遺跡を学ぶ」058、新泉社、2009年）

駒田利治編『律令国家と斎宮』（考古調査ハンドブック13、ニューサイエンス社、2016年）

古川淳一「斎宮寮に関する基礎的研究」（笛山晴生先生還暦記念会編『日本律令制論集』下巻、吉川弘文館、1993年）

渡辺寛「斎宮研究の成果と課題」（『皇學館論叢』10－1、1977年）

斎宮歴史博物館編『斎宮跡発掘資料選Ⅱ』（斎宮歴史博物館、2010年）

【編纂史料集】

訳注日本史料『延喜式』（集英社、2000～2017年）

新日本古典文学大系『続日本紀』（岩波書店、1989～1998年）

新訂増補国史大系〔普及版〕『類聚三代格 前篇』（吉川弘文館、1972年）

【図録】

斎宮歴史博物館『眠りから覚めた文字たち—斎宮跡の墨書き土器—』1997年

斎宮歴史博物館『幻の宮 伊勢斎宮—王朝の祈りと皇女たち—』1999年

斎宮歴史博物館『国史跡斎宮跡発掘30周年記念特別展 器は語る700年』2000年

斎宮歴史博物館『復元建物完成記念特別展 よみがえる斎宮』2015年

斎宮歴史博物館『国史跡斎宮跡発掘50周年記念特別展 斎宮と古代国家～飛鳥・奈良時代の斎宮を探る～』2020年

斎宮歴史博物館 令和5年度夏季企画展

斎宮・常設展示室Ⅲ その③

斎宮寮

令和5年（2023）7月8日

編集・発行 斎宮歴史博物館

三重県多気郡明和町竹川503

0596-52-3800

斎宮寮

会期:令和5年7月8日(土)~令和5年9月3日(日)

展示資料一覧

◎国指定重要文化財

指定	No.	資料名	員数	時代	所蔵
第1章 斎宮寮の設置と整備					
	1	続日本紀(大宝元年8月4日条)	1冊	江戸時代(明暦3年)	斎宮歴史博物館
	2	続日本紀(宝亀2年11月18日条)	1冊	江戸時代(明暦3年)	斎宮歴史博物館
	3	続日本紀(延暦4年4月23日条)	1冊	江戸時代(明暦3年)	斎宮歴史博物館
	4	羊形硯(レプリカ)	1点	現代	斎宮歴史博物館
	5	鳥形硯(レプリカ)	1点	現代	斎宮歴史博物館
◎	6	斎宮跡出土 奈良三彩陶器片	5点	奈良時代	斎宮歴史博物館
	7	続日本紀(養老2年8月13日条)	1冊	江戸時代(明暦3年)	斎宮歴史博物館
	8	銅印「斎宮之印」(模造)	1点	現代	斎宮歴史博物館
	参1	天喜二年四月斎宮寮解(パネル)			原資料:宮内庁書陵部
◎	9	斎宮跡出土 石帶	5点	平安時代	斎宮歴史博物館
◎	10	斎宮跡出土 円面硯	3点	奈良~平安時代	斎宮歴史博物館
◎	11	斎宮跡出土 転用硯	4点	奈良~平安時代	斎宮歴史博物館
第2章 斎宮寮の組織					
	12	続日本紀(神亀4年8月23日条)	1冊	江戸時代(明暦3年)	斎宮歴史博物館
	参2	狩野文庫本類聚三代格(パネル)			原資料:東北大学附属図書館
	参3	九条家本中右記部類(第27)(パネル)			原資料:宮内庁書陵部
	13	類聚三代格(延喜19年11月3日官符)	1冊	江戸時代	斎宮歴史博物館
	14	日本三代実録(貞觀6年1月29日条)	1冊	江戸時代(寛文13年)	斎宮歴史博物館
◎	15	斎宮跡出土 墨書き土器	一括	平安時代	斎宮歴史博物館
◎	16	斎宮跡出土 刻書き土器	一括	平安時代	斎宮歴史博物館
	17	延喜式(式部式上 諸宮舎人条)	1冊	江戸時代(慶安元年)	斎宮歴史博物館
	18	日本三代実録(仁和2年9月30日条)	1冊	江戸時代(寛文13年)	斎宮歴史博物館
◎	19	斎宮跡出土 精製土器	5点	奈良時代	斎宮歴史博物館
	20	日本後紀(大同3年8月3日条)	1冊	江戸時代(寛政11年)	斎宮歴史博物館
	21	延喜式(主税式上 斎宮食条)	1冊	江戸時代(慶安元年)	斎宮歴史博物館
	22	類聚雜要抄図巻	1巻	江戸時代	斎宮歴史博物館
	23	斎宮跡出土 薬壺形土師器	1点	奈良時代	斎宮歴史博物館
	24	斎宮跡出土 石英塊	1点	奈良時代	斎宮歴史博物館
	25	延喜式(斎宮式 新嘗祭条)	1冊	江戸時代(慶安元年)	斎宮歴史博物館
	26	延喜式(兵部式 斎宮武官条)	1冊	江戸時代(慶安元年)	斎宮歴史博物館
◎	27	斎宮跡出土 雁股鏡	1点	平安時代	斎宮歴史博物館
	28	延喜式(左右馬寮式 諸祭祓馬条)	1冊	江戸時代(慶安元年)	斎宮歴史博物館
◎	29	斎宮跡出土 馬具	1点	奈良時代	斎宮歴史博物館
◎	30	斎宮跡出土 繩	1点	奈良時代	斎宮歴史博物館
	31	続日本後紀(承和9年7月17日条)	1冊	江戸時代(寛政7年)	斎宮歴史博物館
	32	伊勢物語絵巻 中巻	1巻	江戸時代	斎宮歴史博物館
	33	秋草図下絵三十六歌仙図色紙貼交屏風	六曲一双	江戸時代前期	斎宮歴史博物館
	34	三十六歌仙図屏風(海北友竹画)	六曲一双	江戸時代前期	斎宮歴史博物館
トピック展 斎宮ではたらく人々の横顔					
◎	35	斎宮跡出土 ひらがな墨書き土器	一括	平安時代	斎宮歴史博物館
◎	36	斎宮跡出土 白黒玉石	一括	平安時代	斎宮歴史博物館
◎	37	斎宮跡出土 線刻土器	1点	奈良時代	斎宮歴史博物館
◎	38	斎宮跡出土 サイクロ形土製品	1点	平安時代	斎宮歴史博物館
◎	39	斎宮跡出土 墨書き土器「ヰ」・刻書き土器「ヰ」	3点	平安時代	斎宮歴史博物館
◎	40	斎宮跡出土 絵画土器・人面墨書き土器	3点	平安時代	斎宮歴史博物館
第3章 斎宮寮の経済					
	参4	続日本紀(天平2年7月11日条)	1冊	江戸時代(明暦3年)	斎宮歴史博物館
	41	一条家本 延喜式(レプリカ)(斎宮式 調庸雜物条)	1巻	現代	斎宮歴史博物館
	42	佐米(模造)	1式	現代	斎宮歴史博物館
	43	堅魚(模造)	1式	現代	斎宮歴史博物館
	44	若布(模造)	1式	現代	斎宮歴史博物館
	45	志摩國輸庸帳(複製)	1巻	現代	斎宮歴史博物館
	46	志摩國木簡(複製)[平城京跡出土]	4点	現代	斎宮歴史博物館
◎	47	斎宮跡出土 緑釉陶器	6点	平安時代	斎宮歴史博物館
◎	48	斎宮跡出土 美濃窯産須恵器	3点	奈良時代	斎宮歴史博物館
◎	49	斎宮跡出土 志摩式製塙土器	1点	平安時代	斎宮歴史博物館
第4章 近世の斎宮研究					
	50	神宮典略	1冊	大正時代	神宮文庫
	51	斎宮寮考証	1冊	江戸時代	神宮文庫
	52	斎宮寮廢蹟考	1冊	江戸時代	神宮文庫
	53	斎宮次第伝	1冊	江戸時代	斎宮歴史博物館
	54	斎宮年中行事新式草稿(春部卷一)	1冊	江戸時代	斎宮歴史博物館
	55	伊勢斎宮記	1冊	江戸時代	斎宮歴史博物館

〔展示替え〕22は半期で場面替えを行います。/33と34は半期で入れ替えを行います。